

# ジャガイモシストセンチュウとの戦い

近年、国内のばれいしょでは、ジャガイモシストセンチュウ（以下、シストセンチュウ）という害虫の発生地域が拡大しています。

シストセンチュウは、ばれいしょの根に入り込んで養分を吸収するため、発生すると激しく枯れ上がります。さらに、長期間土壌中に残るため、1度ほ場に侵入してしまうと根絶が困難です。

鹿児島県では、本県に適したシストセンチュウ抵抗性品種として、「しまあかり」を開発しました。

本品種は「ニシユタカ」と比較して、①収量は同等②そうか病・粉状そうか病にやや強い③出芽揃いがやや遅い④草勢が旺盛⑤外観がきれい食味良好といった特性があります。

本年度は、島内の16ほ場で試験栽培を行っており、徳之島での適合性を評価することとしています。



ジャガイモシストセンチュウの被害を受けたばれいしょほ場（北海道）



植え付け41日後の「しまあかり」及び「ニシユタカ」の生育（徳之島町母間）

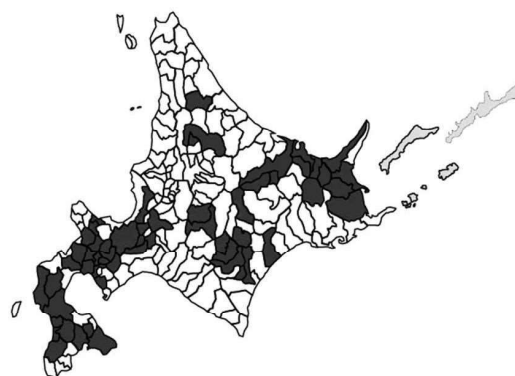
## 現在までの発生地域は？

鹿児島県の主要種場産地である北海道では、13市40町3村でシストセンチュウの発生が確認されています（令和6年4月時点）。

シストセンチュウが発生したほ場では、抵抗性品種しか栽培できません。

種いも生産を行うほ場で発生すると、抵抗性を持たない島内の主要品種である「ニシユタカ」の生産はできなくなるため、種いもの確保が困難になる恐れがあります。

シストセンチュウ抵抗性品種の導入・普及は、喫緊の課題なのです。



ジャガイモシストセンチュウの発生が確認された市町村（北海道）

注1）（令和6年4月現在）13市40町3村  
注2）北海道HPより引用